

先行の研究によれば、東大寺の
莊園支配は律令制らしいの古代法
による支配であって、この法を下か
ら廃棄し新しい時代を切り拓いた
のが武士団でありました。このため
ゼミのなかでは黒田莊に現れる
武士団がおおいに注目され、とくに
そのなかの「悪党」（現代の悪者の
意味ではない）について議論が活発



文観参内の図（後醍醐天皇の側近であった文観は、自ら武器を集めるだけでなく、参内のときは自分の輿の前後に数百からなる悪党をうちかこませていた。太平記は「かの文観僧正の振舞ひを伝へ聞くこそ不思議なれ」とその有様を評している。図はそのときの新井の想像図）

ひとは知らぬ間に大きなところから、次第に小さなことから、興味を移していくようです。わたしが自分の研究スタイルを形成したのは、早稲田の大学院史学専攻課程にはいつてからでした。そのころゼミの先輩たちは、伊賀国（三重県）にあった東大寺領の黒田莊という莊園を共通のテーマにして研究に取り組んでいました。この莊園はこれまで幾多の高名な学者によって考察され、わが国の中世社会を考えるうえで貴重な材料となっていたところでした。

日本高麗浪漫学会会長
新井孝重



題字：第56代
高麗大記

令和8年2月23日
発行：高麗神社々務所

に交わされました。
わたしにはこの「悪党」という
武装した集団がいつごろ、どの
ようにして社会に出てくるの
か、そしていかなる意味を歴史
的にもったのか、という点に
興味がありました。これを解明
するにはたんに悪党だけを観察
するのでは不十分で、かれらを
生み出す莊園の構造と人びとの意識にこそ目配りする必要がある
と考えました。
こうしたことを根底に据えて長い時間をかけて著したのが
『中世悪党の研究』（吉川弘文館）
『中世悪党の研究』（吉川弘文館）
寺領黒田莊の研究』（校倉書房）
論文です。どちらも若いときに領主制、農奴制、封建制、非農業
民などといった概念をつかって、大きいところから中世社会を捉え
ようとしたものです。
ところが人間は不思議なものです。年をとって老境に入ると、
自分の生まれ育った土地の歴史、あるいは自分の手が届きそうな、
江戸や明治の歴史に強い関心を持つようになります。『桜陰筆記』
を読んでいると、幕末ごろの高麗の人びと（わたしたちの先祖）や、
茅葺の隙間だらけの家を思い浮かべるだけで、懐かしさのようなも
のがわいてくるのです。



武装する悪党の図
（鎌倉末期の黒田莊にあらわれた悪党のすがた。
中世絵巻を参考にして描いた新井の想像図）

《期間および女性限定 特別な祈願のご案内》

《桃の節句祈願》 令和八年二月十五日（三月三日の間）受付

旧暦三月には「上巳の祓い」が行われ、人形に穢れを移し、身を清めました。人形は、幼い子の「ひひな遊び」と交じり合い、やがて豪華な「雛飾り」となりました。また花をつけた桃は邪気を祓う象徴であるため、現代では女子の健やかな成長を祈る祭りとして受け継がれています。

対象者：女性

玉串料（祈祷料）…お気持ちでお納めいただきます

授与品…心身清澄祈願札

（心身清らかに罪穢れを祓い明るく幸せに生活できるよう祈念したお札）

繻 雛 まゆひな

（一筋にのびる糸のように美しく丈夫にという思いを込めた小型の雛人形）

※ ご予約の必要はございません



《夏越の大祓式》

令和八年 六月二十八日（日）

古来、人々は無意識のうちに罪を犯し心身が穢れ、病氣や災難が起こると信じてきました。この為、半年に一度、神社で大祓式を行い罪・穢れを祓い清め、残りの半年間を無事に過ごせるように願いました。

◇ 儀式的参加について ◇

時間・一回目 十三時 開式 / 二回目 十五時 開式

ご都合でいずれかの回にご参加ください。所用三十分程

受付・各開式時間の四十五分前より受付開始

祭場・二ノ鳥居前（大きな茅の輪の前）

玉串料・お気持ちでお納めいただきます

その他・雨天決行です。外のため傘や雨具をご持参ください



祈願随時受付 毎日8:30～17:00 （12/31は、14:00まで）

※ご予約の必要はありません

初宮詣・七五三・ランドセルのお祓い（3月上旬～4月上旬）

人生儀礼・商売繁昌・厄除け・方位除け・車お祓い等

高麗神社々務所 埼玉県日高市新堀 833 ☎042-989-1403



編集後記

担当・保々

九号となり、制作も少し慣れてきました。当誌にこめる思いがあります。その一「氏子さん達に向けて」その二「お手洗いの時でも楽しめる気軽さで」その三「たい焼きの尻尾の先まであんが入っているような」編集部では以上の三か条を目標に、よいものを目指しています。原稿を書いていただきました方々にも感謝です。今号もお楽しみいただけましたら幸いです。

ちいき探訪

高麗郡一三二〇年を迎えて

高麗神社 宮司 高麗文康

「二十年后には高麗郡が建郡して千三百年を迎えます。その時には地域をあげて盛大にお祝いをしたいと思います。」

先代宮司である父高麗澄雄がこのように語ったのは平成八年十月十九日例祭、祭典後の直会なおらいの席であった。後に日高市を挙げた祝祭へと発展した「高麗郡建郡千三百年記念事業」はこの一言が皮切りとなった。



平成 28 年 5 月 22 日 日高市主催「にじのパレード」で日高アリーナに終結した約 3000 人の参加者

早いもので、あれから三十年が過ぎた。今年

は高麗郡建郡から千三百年である。この間、平成二十八年には「高麗郡建郡千三百年記念祭」(日高市主催)を始め様々な催しが行われ、

市民に向け高麗郡が周知された。更に小学校の副読本「わたしたちのふるさと日高」に高麗郡の歴史と千三百年の祝祭について記述され、修学旅行先に当地とゆかりの深い神奈川県大磯町高麗に鎮座する「高来神社たかく」(旧高麗神社)を組み入れた小学校もあった。



大磯町の高来神社 社殿背後には趣ある高麗山

「高麗」は元々高句麗のことを指す。高句麗は B.C.三十七年中国東北部に起こり、約七百年間朝鮮半島を含めた広い地域を領有した。滅亡前後日本に定着した高麗人の内、東国七国の千七百九十九人が武蔵国の空閑地に遷ったのが靈龜二年(七一一)五月であった。その遷住地を高麗郡と称した。



高麗郡と東国七国 朝鮮半島の高句麗と日本

父が二十年後の夢を語った

平成八年は、高麗郡廃止から百年であった。因みに昨年は昭和の改元から百年、つまり大正という元号が終わって百年であった。大正は昭和に

社宝見聞録

高麗神社の広開土王碑墨本

―模刻本の発見―

広開土王(こうかいどおう)碑は、高句麗の広開土王(在位三九一〜四一二年)の事績を記録した石碑です。四一四年に高句麗の都である国内城(こくないじょう)近郊(現在の中華人民共和国吉林省集安市)に建てられました。高さは、約六、四メートルあります。現在、碑面は風化のために表面の一部が剥がれ、かつて塗布された石灰が完全には剥落せずに残っています。

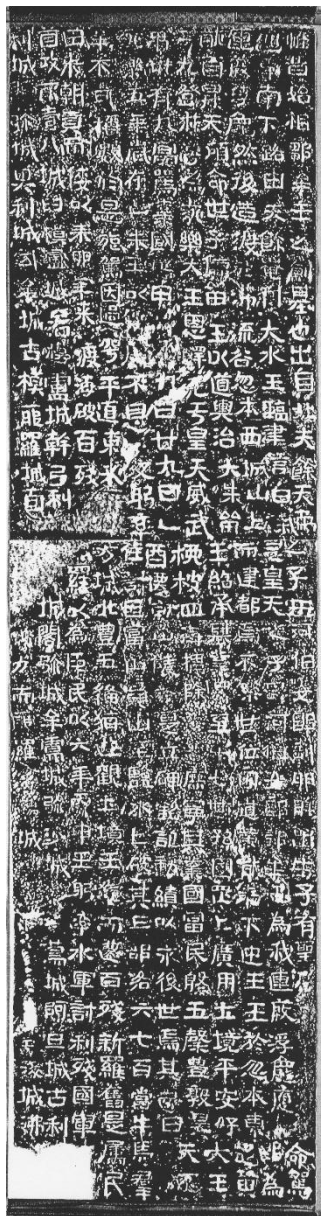


写真 1 昭和 5 年以前拓出
広開土王碑模刻本 第 1 面

高麗神社に伝わる広開土王碑の墨本(写真 1)は、高麗文英(高麗氏五七代興丸の弟)が、昭和五年(一九三〇)以前に中国で購入したものです。文英は、大正時代から昭和初期にかけて、南満洲鉄道経営の南満中学堂に勤務していました。帰省の際に、甥の高麗明津(高麗氏五八代)に贈られました。

広開土王碑の墨本には数種類あります。

- ①碑面の状態をそのまま写しとった「原石拓本(げんせきたくほん)」
- ②拓本を手本にして職人が手書きで碑文を写し取った「墨水廓填本(ぼくすいかくてんぼん)」
- ③拓本職人が碑面に石灰を塗布して作成した「石灰拓本(せっかいたくほん)」

比べ様々な要因により印象は薄い。しかし、知らないという人はいないだろう。一方で高麗郡は千百八十年続いた地名であったにも関わらず、百年後には住民の記憶から脱落していた。澄雄から直接高麗郡建郡千三百年の話を聞いた衆議院議員(当時、現高麗 1300 会長)大野松茂氏は「とても価値のある祝祭だと思った」と当時を振り返り語っている。先代の一言は心ある人々に高麗郡を想起させた。故に大野氏の指導の下、結成された高麗浪漫学会(現日本高麗浪漫学会)が主宰する「渡来文化大賞」には、大野氏の提唱により「高麗澄雄記念」が付されている。



元衆議院議員
元内閣官房副長官
大野松茂氏

今や、「高麗郡」



高麗氏 59 代 高麗澄雄
同 60 代 高麗文康

は当地方の歴史や文化を語る上で、欠かすことができないキーワードとなった。高麗郡建郡千三百年を迎えた今、高麗郡の歴史から、当地発展のためのカラーコンテンツが生み出されることを願っている。

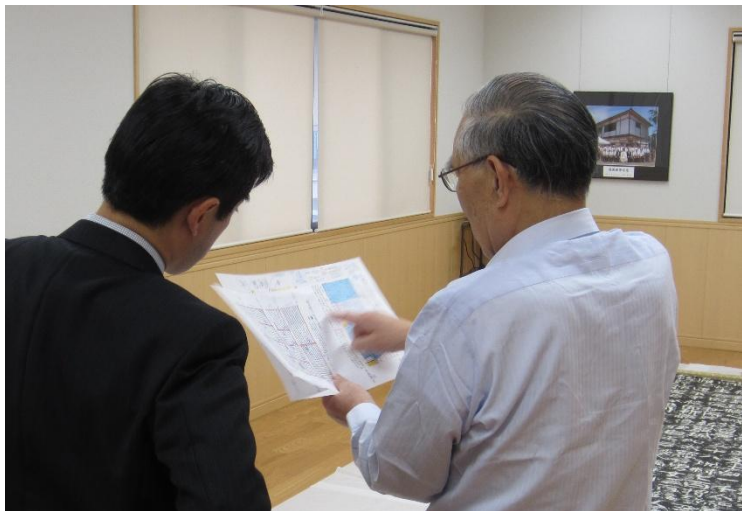


写真 2 平成 24 年(2012)12 月
宮司に調査結果を説明する武田幸男氏

従来、高麗神社本は、「石灰拓本」と考えられてきました。しかし、武田幸男氏(東京大学名誉教授)の調査によって、拓本をもとに作成された「模刻本(もこくぼん)」であると判明しました。文英の上司の子孫も同種の模刻本を所蔵していることもわかり、研究が進められています。

(横田稔 高麗神社主任学芸員)

高麗神社を訪れた人々（文学編三）

曾野綾子『百済観音』

高麗神社 宮司 高麗文康

曾野綾子は昭和六年東京府南葛飾郡本田町（現葛飾区立石）に生まれた。二十歳の時、同人誌に寄稿した『裾野』で注目され、二十三歳で著した『遠来の客たち』が芥川賞候補となったことで広く世に知られることとなった。著作にはベストセラーが多く、長年の功績により一九九三年には日本芸術院賞・恩賜賞を受賞した。社会に対する発信も多く、時にその発言が波紋を起こすこともあった。

表題の『百済観音』は昭和四十年十月一日発行の『小説現代 十月特大号』に掲載された短編小説である。曾野は三十四歳で、売れっ子作家として多忙を極めている最中書き下ろした。



小説現代 十月特大号 掲載頁

物語は、高麗村にて隣り合う本願寺派浄法寺と真言宗智山派光徳寺という架空の寺を中心に展開する。浄法寺住職津田明照を主人公に、「破れ寺」光徳寺の突然の繁栄に揺れる津田の胸中を描く。人の心の暗部とそれに覆われてしまう弱さ、それでも捨てることのできない良心が織りなす葛藤を描いている。小生が驚いたのは、物語冒頭、舞台となった「高麗村」を説明した部分である。「そもそもこの日高町と言うのは旧人間郡

光徳寺はとても独立した寺には見えぬほどみすばらしい。住職の個性も対照的だ。勤勉で社会事業にも取り組む浄法寺に対して、光徳寺住職の性質は俗人であった。ある台風の夜、大風にさらされた光徳寺の屋根が飛び、翌朝差し込んだ日光が外れた床板の下に平安時代に遡る阿弥陀像があるのを映した。この珍事が光徳寺に思わぬ光をもたらし、浄法寺住職津田明照の心に影を落とした。その日から光徳寺は注目を集め、遠来の参拝客団体客も絶えない。行政が補助金を出し施設を整え、住職家の羽振りも格段に良くなった。



一方で、津田の心には嫉妬が渦巻き、やがて正常な理性を失ってゆく。ある日、津田は前年に浄法寺で合宿をした非行少年の校正施設を訪れ、今冬も再び合宿をするように誘引した。合宿の日、施設の中でも問題のありそうな少年数人を利用し、両寺の境にある茂みで喫煙をさせ、火事を起こし、光徳寺と阿弥陀像を焼失しようと画策したのだった。実際には計画通りに着火せず、あろうことか津田自らが付け火をしたのである。冬の乾いた



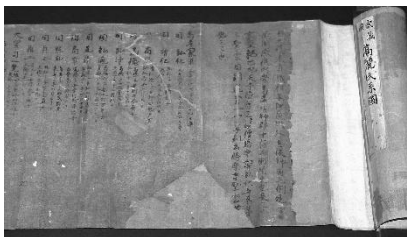
空気と風向きにより火は光徳寺へ延焼した。しかし、驚くべきは津田の行動であった。彼は光徳寺に向かう火中に飛び込み、境内の井戸の水を本堂にかけ続けたのである。本堂は全焼し、阿弥陀如来像も焼けてしまった。津田は無理な消火作業によって瀕死の火傷を負い入院した。

高麗村、高麗川村にあたり、奈良朝の霊亀年間に、朝鮮半島の高麗人一七九九人が移り住み、高麗郡として知られたところである「若光王の墓はそれから数百米西に行った勝楽寺仁王門の脇にあった。入口の赤錆びた重々しい鉄扉には「王廟」の二字がよまれ、それを開ける時の門扉のきしりは、この土地に果てた異邦人の慟哭を聞くようである。」



曾野は、直接物語の展開とは関りのない舞台装置の説明にかなりの字数を費やした。推測の域をでないが、この短編の着想は、実際当社や聖天院を訪れ、得たものではなからうか。それは次の一文からも伺われる。「しかしながら、高麗村には、古い時代の財宝や文書の類はごく少ない。後深草天皇の時代に高麗家が火災にあり、重要なものをほとんど言っていないほど焼失したからである。」こうした事実は当時当社で発行していた由来書『高麗神社と高麗郷』に当たらなければ知りえるものではない。そして、作品の中ではこのエピソードを、物語の導入につなげてゆく。「そのような状態のもとに、初めて光徳寺という小さな末寺が浮かび上がってきたのである。」

当地の有力な寺院である聖天院の末寺であれば、本来、参拝客は多い。しかし、光徳寺を



由来書「高麗神社と高麗郷」の原本となる高麗氏系図。火災の事も記載されている

目指す人々がたどり着くのは、隣接する浄法寺であった。鉄筋コンクリートの本堂と幼稚園を経営する浄法寺は人目を引くからだ。一方で彼の消火作業は皆から称賛され、故に焼けた阿弥陀如来像の体内から奈良朝初期の金銅仏「百済観音」が無傷で発見された報も真っ先に伝えられたのだ。津田は自らの悪行を自覚しつつも、仏の慈悲で愚行ですら仏業の所在を得られたことに安堵し、生涯を閉じた。

この物語で「百済観音」は津田が犯した罪を洗い流すように出現する。否、「百済観音」に導かれるように命を賭したとも言えるか。曾野は古代仏教美術の優美を代表する「百済観音」の、故国が滅亡しても尚生き



続ける霊威を、高句麗が滅亡しても尚高麗人の伝承が生き続ける高麗の郷に託して創作を構築したのだろう。

罪と罰と救済、人の心の醜さと清らかさと不可思議さ、そして、人知では想像すら及ばない真実、この精神的、宗教的な物語に当地の歴史が重みと必然を与えたのであれば、それを発掘した作者の洞察に心から敬意を表したい。

文中挿絵・作者 山田英次



曾野綾子（そのあやこ）一九三二昭和 六）年東京都生まれ。作家。聖心女子大学卒。一九七九年ローマ法王庁よりヴァチカン有功十字勲章を受章、二〇〇三年に文化功労者。一九九五年から二〇〇五年まで日本財団会長を務めた。

画像・ウィキメディア・コモンズ経由で

毎日新聞社「毎日グラフ」（一九五六年一月十五日号）より

神社まめ知識

参考書
神道いろは
発行・神社新報社
監修・神社本庁教学研究所

高麗神社の二月二十三日 【前編】

「祈年祭」について

祈年祭は、「としごいのまつり」とも称し、収穫感謝祭である十一月の新嘗祭と対になる形で、古くから重要な祭事とされてきました。毎年、二月十七日を中心に宮中や伊勢の神宮をはじめ、全国各地の神社において五穀豊穰と国家安泰を神々に祈る祭りが、現在も行われています。

奈良時代以来の朝廷の法律、律令制では規定されている祭事に祈年祭があり、全国の神社（官社）にお供え物である幣帛が奉られていました。幣帛の例として『延喜式』（巻一・四時祭上）には、大きな神社の場合、絹・麻・木綿といった布帛のほか、弓、盾、酒、干し肉、海菜など、さまざまな奉献物が供えられていたことが記されています。

朝廷が祈年祭に幣帛を奉献する神社は、平安時代中期成立の『延喜式神名帳』に記されています。この名簿によると祭事担当の神祇官が祀る官幣社の大社・小社や国司が祀る国幣社の大社・小社、といった区分があり、その数は二千八百六十一社とあります。祈年祭は重要な祭事として、供物内容の差異はありましたが、名簿にある総ての神社に幣帛が捧げられていたのです。

近年、天候不順などの影響もあり、お米をはじめ作物などの収穫量が減るという現象が多くなってきました。食べ物を安定して確保できる事は、生命の根幹に関わる大事であり、生活の基盤ともいえます。祈年祭で祈られる五穀豊穰・国家安泰とは、こういった事象に対する無事も意味しているでしょう。

現在、高麗神社では毎年二月二十三日に氏子会より会長・副会長・会計の三役、青壮年部、婦人部、OB会の各代表、大宮・新井・高岡・栗原北部・栗原南部・楡木・稲荷道・野口本所・藤川の各地区選出の役員等がそろって参列し、祈年祭 併せ天皇陛下の誕生日を祝う天長祭を午前九時より斎行しております。祭典の終了後には、氏子会の総会が行われ、会を運営する為の重要な節目ともなります。

古人曰く「神は人の敬いによりて威を増し人は神の徳によりて運を添う」（『御成敗式目』より）。祈年祭にて高麗神社の御神威が氏子部落の隅々までいきわたりますように、日ごろより神社護持と氏子会運営へのご協力を宜しくお願いいたします。



祭典終了後の総会時 撤したお神酒を頂く



祈年祭・天長祭斎行 本殿内の様子

境内さんさく

『にじのスカート』が結ぶ浪漫

古代装束絵巻』誕生

高麗神社 禰宜・衣装部 高麗奈美子

高麗神社の御祭神、高麗王若光様の祖国について学ぼうと、図録「高句麗文化展」を開き、出会ってしまった、楽しくも美しい古墳壁画の数々。殊に壁画の再現装束の頁が、頭から離れない。御祭神の祖国を、この素敵な高句麗装束と共に語るなら、どんなに素晴らしいだろうか。数年を経て、日本の古代装束に詳しい方に依頼し、ついに「にじのスカート」の高句麗装束は仕立てあがる、二十数年前である。

そこから壁画再現装束を増やしていくが、

折りしも二千十六年高麗郡建郡千三百年祭に向けての行事が増えた頃であり、高麗神社や巾着田等の催しで「若光渡来と高麗郡建郡」を語りつつ、美しい



神楽殿前での『古代装束絵巻』



「高句麗古代装束」を披露した。奈良、飛鳥大阪で古代装束に関わる方々からも様々な学びを得て、「高松塚古墳壁画装束」「天平装束」、高句麗ドラマ衣装風「韓流古代装束」を追加し、古代装束四つのエレメントで構成する『にじのスカート』が結ぶ浪漫 古代装束絵巻』の物語ができた。高句麗ファッションを代表する「にじのスカート」は奈良県高松塚

古墳の飛鳥美人の装束と大いに共通している。両国の文化の繋がりを示す、この高句麗と日本の「にじのスカート」の古代装束を並べ、当地高麗までの歴史を描く『装束絵巻』を年数回ほど上演している。また古代装束は、年間通して神楽殿等の境内に展示し、参拝者の関心を頂いている。

古代装束の展開は、高麗郡建郡千三百年記念事業を華やかに盛り上げた。日高市あげて開催された高句麗装束を着た数千人の「にじのパレード」、市民による古代装束作り、日韓交流おまつり等各地での展示・着装による高麗アピール、高麗王若光様のミュージカル衣装等、ひいては、天皇后后両陛下行幸啓の折にも展示、東京オリンピック聖火ランナーの特別な演出ができる県内三市の一つに選ばれる一因になった等、古代装束の成果は様々に花開いている。



日高市区間 聖火リレーで走り始めるランナー 古代装束の特別演出が地域の特色を表現する